

品種特性等

1 育成経過

品質と食味が優れる品種の開発を目指し、「コシヒカリ」の血を引く「新潟88号」を母、「ひとめぼれ」の血を引く県育成系統「郡系627」を父として交配し、品質及び食味の確認を繰り返し、14年の月日をかけて育成した品種です。



2 品種特性

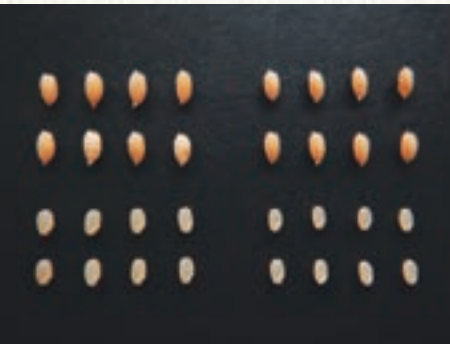
- コシヒカリ並の熟期で、草丈が短く、草型は中間型の品種です。
- 白未熟粒の発生が少なく、品質が優れます。
- 食味が極めて良く、大粒で強い甘みを持ち、やわらかめに炊き上がります。

特性／品種名	福笑い	コシヒカリ
早晚性	中生晩	中生晩
出穂期(月日)	8月8日	8月6日
成熟期(月日)	9月29日	9月27日
稈長(cm)	77	90
穂長(cm)	19.9	19.1
穂数(本／㎡)	436	412
草型	中間	中間
倒伏(0～5)	0.2	2.4
耐倒伏性	やや強	弱
耐冷性(障害型)	中	強
穂発芽性	難	難
葉もち	中	弱
穂もち	中	弱
収量	65.9	62.9
玄米千粒重	24.2	22.4
玄米品質(1-9)	4.5	5.1
整粒歩合(%)	75.0	74.6
白未熟粒歩合(%)	6.4	10.7
味度値	88.2	84.4

※県農業総合センター本部(郡山市)でのデータ(平成30年度普及に移しうる成果)
※2014～2018年の平均値(基肥窒素0.5kg/a+追肥窒素0.2kg/a、玄米は1.8mmで調製)



成熟期の姿



籾と玄米
(左:福笑い、右:コシヒカリ)

「福、笑い」の位置付けと生産要件

「福、笑い」は福島県の清らかな水、恵まれた気候風土のもと、生産者が磨き上げた技術と米づくりへのこだわり、開発者の情熱を結集したプレミアムなお米として生産・販売していきます。

1 「福、笑い」の位置付け

「福、笑い」は、生産量を限定して高価格帯での販売を目指しています。
ブランド米市場に参入する「福、笑い」が、本県のトップブランド米として、県産米全体のイメージアップ、販売シェア拡大及び販売価格の引き上げの契機となり、結果として稲作農家の所得向上につなげていきたいと考えています。
このため、毎年の生産量は年々の販売状況を踏まえ決定します。

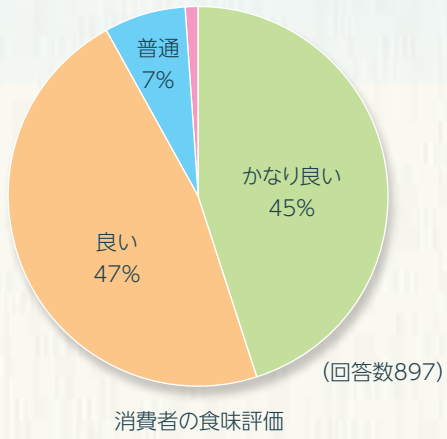
「かおり、あまみ、ふくよかさ」これまでにない個性的な食感・食味が持ち味です

有識者（五つ星お米マイスター）の評価

- 「食べて香りが楽しめるお米」
- 「温かい間は香りがたち、冷めてからでも香りが口に残って鼻に抜ける」
- 「温かい間は米粒がやわらかく、冷めると一粒一粒がぱりっとして二度楽しめる」

令和2年産米の先行販売での評価

- 県内及び首都圏の百貨店、高級スーパー、米穀店等で、店舗と期間を限定して先行販売を行い、高い評価をいただきました。
- 販売価格(税抜き)は、2kg袋が1,600円程度、300g脱気キューブが500円程度。
 - 「福、笑い」の食味について、9割超の消費者から「かなり良い」、「良い」との評価をいただきました(右図)。要素別でも、「かおり、あまみ、ふくよかさ」、いずれも高い評価をいただきました。
 - タイアップした料亭や旅館の料理人等からはトップブランドに相応しい食味と高い評価を得ました。



2 生産要件

「福、笑い」は、認証GAP取得の生産者で構成された認定・登録研究会のみが栽培でき、生産物にも厳しい基準を設けて、食味・品質にこだわったお米として生産します。

- 認定・登録要件 県・集荷団体等で構成する「福島県オリジナル米生産販売推進本部」が認定・登録GAPの認証を取得した複数生産者(3戸以上)により研究会が構成されていること。ブランド化戦略への協力や、栽培マニュアルや食味・品質基準の遵守等を、研究会の定款や規約に定め、実行すること、等。

- 調製基準 調製篩目 1.9mm以上
- 食味・品質基準 玄米タンパク質含有率 6.4%以下(水分15%換算)

※「福、笑い」の栽培に必要な研究会の認定・登録の申請は、作付の前年度に受け付けます。申請時期や認定・登録要件等の詳細は、水田畑作課のホームページを御確認いただくか、お電話等でお問い合わせください。

日本一の米をつくりたい。

米どころ、ふくしまの想いをのせて。

14年もの月日をかけてたどりついた「かおり、あまみ、ふくよかさ」。

選ばれた作り手だけが育てることができる、はじめての美味しさ。

福、笑い

ふくしまから



パッケージデザインに込められた想い

自分も田園地帯で育ち、農家の友人の手伝いなどをしながら幼少期を過ごしました。絵を描くにあたっては、お米、田、それを支える人たちの顔など、自分の記憶を重ね合わせながら、「福、笑い」が生まれてくる場所を描きました。
みなさんの想いがパッケージを通じて伝わってゆくことを切に願っております。

アートディレクター 寄 藤 文 平

令和3年3月
福島県

問い合わせ 水田畑作課(電話024-521-7360)
又は各農林事務所(農業振興普及部・農業普及所)

福島県オリジナル水稻品種「福、笑い」栽培暦

●栽培地帯:会津地方の平坦地域(標高300m以下) 美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要!

福島県農林水産部
水田畑作課

食味・品質基準
玄米タンパク質含有率:6.4%(水分15%換算)以下
調製基準:1.9mm

生育

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	下旬	上旬
下旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	下旬

移植期
コンヒカリに比べ、
苗の丈はやや短く、葉色は同程度
コンヒカリの中間

分げつ期
葉色はひとめばれと
コンヒカリの中間

出穂期
8/8頃
(農業総合センター会津地域研究所の場合)
コンヒカリより
2日程遅い

成熟期
8/13頃
(農業総合センター会津地域研究所の場合)
稈長はコンヒカリより短い、穂は止葉に隠れる
成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する

播種
育苗管理
田植え

耕起
代かき
除草剤散布

主な作業

土壌改良資材
基肥施用
箱施薬散布
(殺虫・殺菌)

【栽培のポイント】
・基肥窒素を制限し、葉色にに応じて穂肥を適正に施用することで、粒数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

栽培上の要点

●土づくり

- ・堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
- ・鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

●種子予措

- ・必ず塩水選(比重1.13)を実施する。
- ・種子消毒は薬剤により実施する。
- ・水温を確認して、十分に浸種を行う。

●移植

- ・栽植密度は畦間30cm×株間18~22cm(坪50~60株)とする。
- ・風の強い暖かい日に移植する。
- ・活着までは浸水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。

田植え適期:5月中旬
(登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない)

●病虫害・雑草防除

- ・福島県農作物病害虫防除指針に基づき、防除する。

☆施肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~22本/株
50株/坪の場合 約24~26本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~22本/株
50株/坪の場合 約24~26本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~22本/株
50株/坪の場合 約24~26本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

福島県オリジナル水稻品種「福、笑い」栽培暦

●栽培地帯:中通りの平坦地域(標高300m以下) 美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要!

食味・品質基準
玄米タンパク質含有率:6.4%(水分15%換算)以下
調製基準:1.9mm

福島県農林水産部
水田畑作課

生育

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	下旬	上旬
下旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	下旬

移植期
コンヒカリに比べ、
苗の丈はやや短く、葉色は同程度
コンヒカリの中間

分げつ期
葉色はひとめばれと
コンヒカリの中間

出穂期
8/13頃
(農業総合センター本部の場合)
コンヒカリより
2日程遅い

成熟期
8/13頃
(農業総合センター本部の場合)
稈長はコンヒカリより短い、穂は止葉に隠れる
成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する

主な作業

土壌改良資材
基肥施用
箱施薬散布
(殺虫・殺菌)

耕起
代かき
除草剤散布

【栽培のポイント】
・基肥窒素を制限し、葉色にに応じて穂肥を適正に施用することで、粒数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

栽培上の要点

●土づくり

- ・堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
- ・鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

●種子予措

- ・必ず塩水選(比重1.13)を実施する。
- ・種子消毒は薬剤により実施する。
- ・水温を確認して、十分に浸種を行う。

●移植

- ・栽植密度は畦間30cm×株間18~22cm(坪50~60株)とする。
- ・風の強い暖かい日に移植する。
- ・活着までは浸水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。

田植え適期:5月中旬
(登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない)

●病虫害・雑草防除

- ・福島県農作物病害虫防除指針に基づき、防除する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~22本/株
50株/坪の場合 約24~26本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~22本/株
50株/坪の場合 約24~26本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~22本/株
50株/坪の場合 約24~26本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

福島県オリジナル水稻品種「福、笑い」栽培暦

●栽培地帯:浜通りの平坦地域(標高300m以下) 美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要!

食味・品質基準
玄米タンパク質含有率:6.4%(水分15%換算)以下
調製基準:1.9mm

福島県農林水産部
水田畑作課

生育

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	下旬	上旬
下旬	中旬	上旬	中旬	上旬	中旬	下旬

移植期
コンヒカリに比べ、
苗の丈はやや短く、葉色は同程度
コンヒカリの中間

分げつ期
葉色はひとめばれと
コンヒカリの中間

出穂期
8/13頃
(農業総合センター浜地域研究所の場合)
コンヒカリより
3日程遅い

成熟期
8/13頃
(農業総合センター浜地域研究所の場合)
稈長はコンヒカリより短い、穂は止葉に隠れる
成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する

主な作業

土壌改良資材
基肥施用
箱施薬散布
(殺虫・殺菌)

耕起
代かき
除草剤散布

【栽培のポイント】
・基肥窒素を制限し、葉色にに応じて穂肥を適正に施用することで、粒数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

栽培上の要点

●土づくり

- ・堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
- ・鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

●種子予措

- ・必ず塩水選(比重1.13)を実施する。
- ・種子消毒は薬剤により実施する。
- ・水温を確認して、十分に浸種を行う。

●移植

- ・栽植密度は畦間30cm×株間18cm(坪60株)とする。
- ・風の強い暖かい日に移植する。
- ・活着までは浸水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。

田植え適期:5月中旬
(登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない)

●病虫害・雑草防除

- ・福島県農作物病害虫防除指針に基づき、防除する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~23本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~23本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

☆施設肥体系 食味向上のための施肥管理

①窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銹柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。

②穂肥は幼穂形成期(出穂前25日頃)に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色(SPAD値等)を確認して判断する。

③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し

- ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- 〈茎数の目安〉60株/坪の場合 約20~23本/株
- ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。